

教育目標:	○自ら学び、よく考える	○進んで協力し、他人を思いやる	○心身ともにたくましく、最後までやりぬく
目指す学校像:	○生徒が主体的に学び活動する学校 ○教職員が協働して教育活動を創造していく学校 ○保護者や地域社会から信頼される学校		
目指す児童・生徒像:	○自分の夢に向かって意欲的に学ぶ生徒 ○他人のために労を惜しまない心豊かな生徒 ○強い意志と自信をもち、たくましく生きる生徒		
目指す教師像:	○教育に対する熱意と使命感に富む教師 ○一人一人の良さや可能性を引き出せる教師 ○研修意欲に富み互いを高め合う教師		

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標 (中間)	努力指標 (最終)	成果指標 (中間)	成果指標 (最終)	今後の課題	学校関係者評価記入欄
豊かな心と社会性	「豊かな心と社会性を育む。」 ・豊かな情操や規範意識 ・自他の生命の尊重、他者への思いやり ・公共の精神 ・人間関係を築く力 ・困難を乗り越え成長遂げる力 ・自分のよさや可能性を認識する力 ・多様な人々と協働する力	・生徒の自己肯定感を高め、不登校やいじめ等の課題の解決につなげる。 ・道徳の時間を「自分なりの答え」を見出す時間とし充実を図る。 ・社会的能力(「自己表現力」「自己コントロール力」「状況判断力」「問題解決力」「親和的能力」「思いやり」)を高める。	一人一人の良さを見つけ、褒め、認め、励まし、伸ばす指導(コンプリメント)を推進する。	4 100%		1 68.0%		今後も有効な具体的なコンプリメントの方法等を学校全体で共有する必要がある。生徒にコンプリメントを行うに当たっては、どの取り組みや行動の何が素晴らしいのか、具体的な場面で繰り返し認め褒めることを行っていくことが必要。また生徒アンケートで自己肯定感の低い生徒については意図的に生徒への声掛けやコンプリメントを行って行く必要がある。	◇自己肯定感に関するものは前々より低く、この時期の子どもたちの特有のものでもあるが、やはり学校内においては、先生と子どもの信頼関係をより深いものに、また家庭内では子どもとの対話を心掛けたい。 ◇教員は生徒の良いところを見つけ、ほめ励ましの声をかけていると思う。今までの経験の中で、自信をなくし、自分はダメだと思っている生徒もいると思う。生徒自身が自己肯定感をもつには、成功体験・努力が実ったという達成感によると思う。体験を通して自信を持つには時間がかかるが、教員の一言が生徒が生きていくうえで、自信につながることも多い。 ◇自己肯定感の低さについては、特定の所属に偏りがあるかなど細かな分析も必要。 ◇自己肯定感を指標に入れることは学校評価をするうえで良いと思う。
			「特別の教科 道徳」は、指導方法を工夫し、「考える道徳」「議論する道徳」を推進する。評価は、生徒の良さを認め意欲につながる評価を行う。	3 85.7%	4 86.2%	2学期にはローテーション道徳に取り組む予定である。このローテーション授業の間に、教員がお互いの授業を見ることで授業力の向上につなげていくことが必要である。また生徒の評価については、これを維持しながら向上につなげていく必要がある。振り返りシートへの教員のコメントは生徒の考えの良さを認め記入等をしていく。	◇これまでの道徳教育の取り組み、研修の成果は生徒たちに豊かな心と社会性の教育に大きな力になっていると感じる。		
			教育活動の様々な場面で、それぞれの教員の持ち味を活かし、生徒の社会的能力を高める指導を行う。	3 89.3%	4 88.4%	授業や学級活動、行事をとおして、それぞれの教員の持ち味を活かし社会的能力の向上を図っていくことも今後も継続して行っていく必要がある。社会的能力を高めることは、学校生活への適応という面にも大いに関わってくるので不登校への未然防止の点からもさらに向上を目指していく必要がある。	◇職場体験の中止も含め、地域との交流がコロナ禍の中、やむをえないとは言え希薄になっているのが残念である。社会性を育むうえで貴重な機会である。		
確かな学力	「基礎力、思考力、実践力をバランスよく育み生徒一人一人に確かな学力を育成する。」	基礎的な知識や技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、学びに向かう力を高める。	ICT機器の活用、1人1台の端末の活用をすすめる、また授業のユニバーサルデザイン化を図り、分かる授業をすすめる。	1 64.3%		4 90.5%		生徒アンケートの高評価は一定の評価として受け止め、継続して取り組みをすすめていく。1人1台のタブレットの活用については、校内での活用例の共有や他校での事例なども参考に効果的な活用を研究していく。また、GIGAスクール構想初年度であるので、その活用については失敗を恐れずチャレンジしていくことも必要である。	◇導入されたタブレットも活用し、今後も効果的に利用していった欲しい。 ◇授業で習う内容が可視化されることで、言葉だけで聞くより、楽しく、興味をもってわかりやすいものになるのかと思う。 ◇教員については、資料作りの積み重ねがされれば解決していくと思う。
			朝読書、質問教室、補充教室、サポート教室等を実施し励ましや肯定的な声かけ等、個に応じた指導を充実させる。	3 82.1%	4 87.1%	今後も質問教室、サポート教室の取り組みを継続していく。サポート教室は、希望の生徒が多く、補助として学生ボランティアの活用も考えていく必要がある。1人1台のタブレットの活用で個に応じた指導をすすめる点では、夏休み期間の学習教室で自主学習の形で進めてきたことをさらに広げていく。	◇少人数、サポート教室、質問教室など学校側の取り組みは大変よいと思う。 ◇困っている生徒に対しては、機会を通じて質問教室、補充授業などを行い、学力の底上げを図っていただきたい。		
学校居心地感	「生徒の学校居心地感を高める。」	生徒の心の居場所、生徒同士のきずなづくりの場所のある環境づくりをすすめる。	生徒の困難さに応じて様々な工夫や手立てを講じる。教科の学習、行事、部活等様々な場面で生徒の学校居心地感を高めるアプローチを行う。	4 100%		4 89.3%		学校居心地感の低い生徒については、個人面談などを通じて声掛けを行っていく。また自己肯定感とも学校居心地感の関係していることがアンケートでは読み取れるので、自己肯定感の向上も併せて進めていく。	◇緊急事態宣言が常に延長され続けていく学校生活が日常になっている中で、行事や部活動、授業を楽しみ充実させて学校での居心地感を高める努力をしている様に感じる。行事の変更や中止については、生徒にアンケート等を取り、できることを企画してはどうだろうか。 ◇教室は最も長く過ごす環境である。まず担当が美化活動に留意し、朝の挨拶を大切に、明るく声を掛け合い、楽しい雰囲気づくりを心掛ける。
			様々な機会に、生徒に役割をもたせ、生徒に「人の役に立つ力をもっている」ことを自覚させる。	3 89.3%	1 58.3%	多くの生徒は、自分の役割をもちそれを果たそうとしている。そのことが「人の役に立っている」ことにつながっていることを自覚できていない面もあるので、「ここが、人の役に立つことにつながっている」ということをこまめに伝えていくことが必要である。また、様々な形で生徒の活躍を発信していくことも行っていく。	◇真面目に、何事にも良く取り組むが、それが当たり前で、自分が特別にやっていると感じられないのではないかと、それに気づかせることで自分の行動が役に立っていることがわかる。 ◇人の役に立つということが何か高邁なことですぐに達成できないようなことを生徒は考えているのかもかもしれない。生徒同士で気軽にありがとうという言葉をかけあえるようなことの積み重ねでよいのでは。		